

1. 会議名	第2回出雲市地場中小企業・小規模企業振興会議
2. 開催日時	令和4年8月31日(水) 18:00~20:00
3. 開催場所	出雲市役所 3F 庁議室
4. 出席者	<p>【出席】</p> <p>山岡 尚会長、長岡 明生副会長、安部 宏委員、板倉 成二委員、伊藤 繁満委員、陰山 篤也委員、加村 健悟委員、加本 るい委員、來間 久委員、須山 賢也委員、壺倉 浩平委員、橋本 孝委員、原 久子委員、原 八重子委員、槇原 綾子委員、三島 善子委員、渡部 由美委員</p> <p>【欠席】</p> <p>坂根 俊委員、田中 由美子委員、中澤 雅美委員、長瀬 理更委員、馬庭 伸行委員、持田 幹男委員</p> <p>《事務局》</p> <p>商工振興課長、産業政策課長、商工振興課職員（5名）</p> <p>21世紀出雲産業支援センター職員（2名）</p> <p>株式会社バイタルリード（4名）</p>
5. 議題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 中小・小規模企業状況調査の結果を踏まえた中小企業・小規模企業の課題について</li> <li>2 出雲市中小企業・小規模企業振興計画に係るこれまでの取組の検証について</li> <li>3 その他</li> </ol>
6. 会議内容 ※敬称略	<p>■要約</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中小・小規模企業状況調査の結果の分析について、事実か推察か明確にする。</li> <li>・アンケート結果だけではなく、別の視点も盛り込み、俯瞰的に振興計画の骨子案を構築する。</li> <li>・多様な働き方を実現するためには、短期的な課題への対応も必要だが、制度なども含め中長期的なビジョンでどう変えていくかを考えなければならない。</li> <li>・例えば外国人雇用の申請手続きなど、特定の課題に対して支援体制を持つ市内事業所がある。</li> <li>・事業承継の新しい形を考える視点が重要である。</li> <li>・人口をキープするために、UIターンに力を入れる必要がある。</li> <li>・取組のKPIを施策の効果が分かる指標にする。</li> <li>・振興会議の位置付けを改めて事務局側で整理する。</li> <li>・次回の第3回振興会議は10月の上旬から中旬にかけての時期に開催する。詳細日程等は決定次第連絡する。</li> </ul> <p>■内容</p> <p>委員 前回の会議から1ヵ月たち、酷暑も峠を越え朝夕も涼しくなってきた。久しぶりの花火大会も夏らしく良い風物詩となった。新型コロナウイルスは中々過ぎてはくれないものの、ピークは越えたように感じている。先日島根県知事が飲食店利用の人数制限の要請をしていたが、その条件も以前より緩和されている。飲食店もこれから元気を取り戻し、出雲市内の経済が再び動き出すことを期待している。一方アンケート調査結果から見ても、事業者は仕入価格の高騰で苦慮されている。世界的な影響で難しいことだが、出雲市も施策として補正予算を講じる模様。</p>

今後ロシアからのエネルギー供給の変化により、我が国でも電力の価格高騰も目前に迫っている状況。色々な物の価格上昇に対して、事業者だけでなく消費者も省エネ等徹底していかなくてはならない。さて、前回の会議では今回新しい振興計画の骨子案を提示して議論いただく予定となっていた。今日の議題は前回に引き続き企業の状況調査の結果説明と、これを踏まえた分析、前計画の目標達成状況の検証を行う。これらを中心に会議を進めていく。活発にご意見をいただきたいと思う。

## < 1. 中小・小規模企業状況調査の結果を踏まえた中小企業・小規模企業の課題について >

事務局 『資料1～4』をもとに調査の詳細な結果と分析、抽出した課題の説明

委員 先程の説明ではっきりわからない部分がある。例えば、資料1のp.31の外国人について記載ある。私が多文化共生で、今の時代ですから、また皆さん方のニーズも結構高く、外国人労働者について分析しているが、「受入れの機運が高まっている業種から積極的な受入れを進めていくことも検討が必要」とある。これはどういうことか。それから資料3の出雲市の市町村民所得とはどういう意味か。事務局もしっかりと資料に目を通して説明していると思うが、私には理解できない部分がある。答えていただきたい。

委員 整理すると、資料1 p.31の下にある青枠内の下から2番目の段落のことか。それからもう1点は資料3 p.7⑦の出雲市の市町村民所得のグラフがあるが、こういう言い方をするかということか。

委員 どういう意味かよくわからない。

事務局 資料1 p.31については、p.30②で「外国人を現在雇用している」、「現在は雇用していないが、将来的に雇用したい」と回答した割合が高い業種を、受入れの機運が高まっている業種として、既に雇用が進んでいる業種とともに、将来的に外国人雇用に関心の高い業種から受入れが積極的にできるような策の検討をしたらどうかということ。そうとは言え、多文化共生の観点から全体的にも進めていかなければならないが、既に素地がある業種もあるので、その部分からやってはどうか、という意味合いで記載している。

委員 日本は今の認識として多文化共生を進めていく時代。進めるならきっちりと進めていくべき。他の箇所の記載は全部断言するような表現であるのに、「検討が必要」という表現にすることが疑問。基本的な姿勢をしっかりと表現すべき。

もう1点、資料3にある出雲市の市町村民所得とは何か。このような言い方をするのか。

事務局 大変失礼した。おっしゃる通りである。私たちのチェックが漏れていた。本当は出雲市民の所得。全国的には市町村の表現だが、出雲市に限ったデータなので明らかな記載間違いである。

委員 伊藤委員もおっしゃっていることだが、それぞれの青枠で囲まれた文章表現が「課題となっている」、「特徴がある」、「推察される」、「検討する必要がある」等で、事実を言っているのか事務局の想像を書いているのか何が言いたいのかわからない。それぞれの青枠によって中身が変わってきている。そこをしっかりと整理していただきたい。

事務局 チェックはしていたが、混乱を招く表現になっており大変申し訳ないことである。事実としての部分と結果から読み取る部分が混ざり合っているため、委託業者とも相談しながら再度整理したい。

委員 ご指摘の通りそこに課題が混ざっており、わかりにくくなっていると思うので整理していただきたい。基本的に調査結果のため内容は事実と分析であると捉えている。

委員 このアンケート調査結果から導き出される課題を見つつ、今回策定する新しい計画をイメージ

するために議論が進んでいる状況だが、計画のベースになるものがこのアンケート調査結果だけなのかどうなのかが気になっている。現在はある企業に聞いた結果のみを見ている。例えばこの中では事業者数が非常に減っているが、これまでこの振興会議では新しい事業者の創業に注力してきたはず。このアンケートだけだと創業に関する情報は欠落する。隣接する松江市や雲南市との間で置かれている出雲市の立ち位置といった要素も入れなければ、調査から出た課題解決のみに対応するストーリーになりかねない。出雲市なりのストロングポイントがあるはず。それを伸ばそう、というところもあって良いような気がする。前回の振興計画もそうだったが、現在置かれている企業の課題は踏まえるものの、このアンケート調査結果の要素だけに囚われ推進計画の骨子案が作られている、結果的にそのようになった、と感じる。別角度からのアプローチも必要に思う。

委員 アンケート調査結果を分析し課題を抽出したところ。ご指摘のように出雲市の産業がどうあるべきかをもっと俯瞰的に見て、推進計画に盛り込まれるべきだろうという意見。それはまさに骨子案に盛り込まなければならないと思う。

事務局 今回状況調査を実施する意図としては、まずは課題を見つけることだと認識している。出雲市の経済の中で中小・小規模企業の強みと言えば、誘致企業が多く出雲市の工業製品出荷額は全県(内)では一番高いが、こと中小・小規模企業だけを捉えて(強みを)導き出すのは非常に難しいところもある。計画策定のためにどのように拾い上げていくべきかを考える上で、我々だけでは難しく気付かない点もある。委員の皆さんでお気づきの点があればぜひご教授いただきたい。

委員 調査結果を見ると色々と課題がある。特に女性はどうしても非正規職員が多く、当然所得も少なくなる。女性にとって働く環境として魅力がないために若い女性が離れていく結果になっているように感じる。

委員 女性の正規雇用が少ないことは出雲市に限ったことではない。女性の正規雇用を増やしていこうというのであれば、女性が正規雇用で働き続けられる企業を多く作らないといけない訳で、今はそれがいないために非正規雇用が多い状況になっている。それを改善するつもりなら、子育てを例として挙げると、女性ばかりが担っている。「イクメン」などと育児休暇を取得する男性の話題もあるが、実際その制度があったとしても会社自体に取得しやすい風土があるかどうか。進んで育児休暇を取らせる風土がない会社の方が圧倒的に多いのではないかと思う。子が発熱した場合、母親が行けない状況になって父親が迎えに行くことを希望した際、簡単に母親が迎えに行けば良いなどと平気で言うような田舎ならではの風潮があると思う。風潮を変えていくためには小さい時からの教育も必要。女性の正規雇用が少ないという現象だけを捉えて何か対応するのではなく、長期的なビジョンでどう変えていくかを考えなければならないと思う。もちろん現状に対応することも大事。

委員 おっしゃる通り。色々な分野で課題として提起されていることだと思う。出雲市でも『出雲市総合計画「出雲未来図」後期基本計画』や『出雲市まち・ひと・しごと創生「人口ビジョン」』等で取り上げられ考えられていると思われる。一朝一夕で変わるものではないと思うが、そういった方向に進まなければならない。

事務局 ワークライフバランスの啓発は行っている。限定的ではあるが企業に赴き出前講座等行っている。先日は市役所だけではなく市内の商工団体も含めて「イクボス宣言」に協力していただく動きもある。女性の非正規雇用割合が高いということは色々な視点があると思う。1つは女性が夫の扶養に入っている場合は収入の制限があるため、非正規職員にならざるを得ない。もち

ろんそういった働き方を根本から変えていかななくてはならないが、家事をすることを含めて考えて短時間勤務しかできないということもある。過去のデータと比較した訳ではなく、あくまで推測であるが、以前より女性正規雇用は増えている一方で、税金や制度や保険等諸々の事情を考慮した上での選択もあると思う。一番大事なのは女性それぞれが希望する働き方を選べるということ。この点については出雲市独自でできることは限られる。先程も申し上げたが、事業者に向けて「イクボス宣言」も含めワークライフバランス啓発活動を通じて、男女共同参画の視点から働きかけることが改善へ向かうと考えている。ご協力をお願いしたい。

委員 扶養の話が出たところだが、10月から最低賃金が857円に上がる。非正規労働者は扶養の範囲内で働く場合、働ける時間が減ることになる。社会保険の適用範囲も拡大する方向のため、扶養内か扶養を抜けて長く働く選択を迫られているタイミング。私の社労士事務所でもパート社員が5名いる。将来厚生年金も貰えることをメリットと考え、老後資金にもなるしその方が良く思ってくれたパート社員から徐々に社会保険に加入して働くようにしてもらっているところ。そういった資料も持っているので、中小企業の皆さんのところへライフプランについてのご説明やご提案に伺っても良いかと思った。

事務局 非正規労働者の女性が長い時間働くことを希望する場合、正規雇用にしたり社会保険に入ってもらったりして希望に沿うような雇用形態、制度を整えていかなければならないとお話をお聞きして改めて思った。

委員 加本委員が仰ったが、行政書士として事業所等にアドバイスができることは外国人雇用の問題があると思う。調査結果の中にも申請等が分からないという回答結果もあった。行政書士会には外国人を専門に対応している部会もある。外国人雇用に関して興味のある企業に行政書士会とも協力して相談会を開催するというのも良いかと思った。

事務局 私たちも外国人雇用の手続に関して詳しくはないため、そういった動きがあることは事業者にとっても大変ありがたいこと。計画自体に盛り込めるかは現時点では不明。そういった取組というのは引き続きお願いしたい。国が外国人雇用に制限をかけている一方、専門的な知識を持っている人材は求められている。調査結果の中でも人材不足で外国人雇用に興味を持っている業種に情報・通信業があった。現在中海・宍道湖・大山圏域でも特にインドとの交流の中で、外国人の人材を雇用するというような動きもあるが、人材定着ということになると非常に難しいところもある。細かく確認はしていないが、情報・通信業は1つの言語の中で作業できるということから、今後は日本人だけではなく外国の方も即戦力にしたいと思っているのではないかとこの調査結果を見て思った。

委員 行政書士会の話については求人を見た外国人の対応の個別相談も可能でしょうか。

委員 どちらかという和在留申請手続のサポート等へのご相談は乗れます。

委員 私が創業したころは女性のパートを雇用していたが、3年ほど前に事業承継を行った。すると、結構女性の正規社員が務めるようになった。今までパートだった方も子供に手がかからなくなったという理由で何人も正規雇用して積極的に仕事をしてもらっている。若い方に事業承継をしてよかったな、と感じた。

委員 先程壺倉さんが仰られたように、他の視点からどのような施策を講じるかをどのように捉えていくかが課題である。

委員 事業承継の関係で、私の知り合いで個人の70歳を超えている事業者に「これからどうされるのか」を聞いたことがある。子供と二人でやっていくほどの売上げはないので自分一人でやっている。子供は一緒に仕事ができないから別の仕事をやっている。自分が動ける間はこの事業

を続けるが、自分が動けなくなったらやめる考え、とのこと。アンケート結果を見ても個人企業はこれだけ多く、また 70 歳以上はかなりおられる。やっておられた仕事自体を子供に負わせるのは難しいし、これを誰かが動かすと言ってもこれだけの売上では中々できないとなると、2つ3つを合わせてある程度の規模にするなど、事業承継の新しい形を考える視点が重要と感じる。個人から個人へというのは中々難しい時代なのかなと色々な人と話す中で感じた。その辺りを検討していただけたらと思う。

委員 データであるように 70 歳以上の代が増えている。団塊世代が 70 代に差し掛かってきている。その辺りの承継を塊としてまとめて承継するような仕組みが取れば良いと考える。

委員 とってもバラ色の人生が広がるようなお話だったように思う。経営している方から言うと、売上がないと、雇用もできないし、社会保険料を払うこともできない。両方一緒に進められるのが一番良いが、一番大きなところは売上げと考える。今段々世の中パイが小さくなっていっているんで、自分のところだけが売上げを上げるのか、出雲市全体として売上げを上げるのか、そういう施策が必要なのかなと思う。原料も今温暖化で取れなくなっているという問題を抱えている業者もいる。そういうところに着目して、これは出雲産の原料で、皆どんどん使ってもらったら付加価値が出てよく売れる商品の原料ですよ、というような特産品や産物の成長、掘り起こしも必要ではないかと考える。

委員 当然市の施策としては全体のパイを大きくしていく考えである。要するに外へ出ていかないと、中でやっているだけでは人口がどんどん減っていくため（市場が縮小してしまう）。一つはブランド化ということがある。その辺りは事務局にも考えがあると思うので施策に盛り込んでいただければと思う。

## < 2. 出雲市中小企業・小規模企業振興計画に係るこれまでの取組の検証について >

事務局 『資料 5』をもとにこれまでの取組の検証について説明

委員 現行振興計画の検証について、今年度がまだ残っているところでの過去 4 年間の実績、また目標値が途中で変わっている項目もあり厳密に達成したかどうかという判断はできないところもある。施策ごとの評価としては先程の説明の通り。

委員 資料 5 の p.2 の 3.円滑な事業承継支援と創業支援の創業につながった支援者数という項目で目標値と達成値が達成されているのに評価が 3 になっている。他の項目と見比べてみたが、目標値を越えているのにもかかわらず評価を 3 にされた理由を教えてください。

事務局 事務局が難しく考えている面もあるが、1 つは毎年、令和元年から 3 年間、それぞれ各年の評価をさせていただき、その評価段階をもとに今回この評価達成度を出したところ。正直私たちも 3 にしようか 4 にしようかと迷った部分。4 と言ってくださると事務局としては取組を非常に評価していただいたとありがたく思う。これについては申し訳ないことに少々厳しめに評価した。ですが、令和 3 年度については創業塾の参加者の 2 割以上が創業したという実績もあることから 4 という評価をつけた。そういったところで、先程説明した通り、創業実践塾で今までよりもさらに実践的な創業知識を学べる塾を行うようになった。ここの評価を 3 としたのは我々にとって低い評価をしたとは思っている。

委員 何か理由があって評価を 3 にしたのかと思い、その理由をお聞きできたら良かったと思う。特に女性のための創業セミナーを令和 2 年度から実施されているということで、課題として「女性」がキーワードとして出ているので、そのあたりにも注目していただければと思う。

事務局 現在この創業実践塾には女性の参加者が非常に多い。手持ち資料がないのでもし把握してい

ば別の者に付け加えてもらいたいが、特に女性の方が今まで小さく取り組んでいたものを、きちんとした形で創業する方、あるいは本当に仕事を辞めて新たな方向に向かわれる方もいる。これには男女共同参画の視点もあるが、女性の創業者を増やしていきたいという考えもあり、令和2年度から創業セミナーを開催したところ。色々とニーズもあり、またこれに参加される女性の皆さんは横の連携というかネットワークを作るのが男性より上手な部分もあって、それぞれが励まし合いながら創業を進めていらっしゃるというようなケースもあるという。そういった点では市としても女性の活躍が大事と考え引き続きこの創業支援事業を行ってきたい。

委員 人材の育成の項目だが、いわゆる高卒予定者の就職率、県内外を問わず県内の就職率の記載がある。それと UI ターンの上の項目との関係だが、いわゆる高卒予定者の就職率というのは出雲市内を含めて県内ではあまり変化はしていないと思っている。それでも段々全体的に生徒の数は減り、分母が減ってくる。そうするとやはり（就職者数も）減ってきている。そこでどうしても UI ターンにはもっと力を入れていかないといけないと思う。以前の目標値でずっと横並びに書いてあるが、ここはもっと力強く目標値をしっかりと上げて、支援をもっと拡大していかないと本当の意味でこの地域は衰退していく。今は外国人で保っているところがあるが、やはりここに力を入れていかないと人口をキープできないと思う。しっかりと力を入れるべきと考える。

事務局 UI ターン就職の支援窓口は産業政策課が担当している。先程説明したようにコロナの影響で窓口相談者というのは非常に少なくなっている。こちらから都会地にも出向いて直接対面で相談を受けるということが一番やりたいことだが、今はそういう時期でもない。なんとかそれに代わる方法を用いて、先程伊藤委員さんが仰るように是非とも UI ターンに力を入れていきたいと考えている。

委員 この目標値も実際の達成件数や雇用件数がある一方で、単にセミナーに参加した人数というような値も出ている。施策として実際にどういう成果があったかが重要で、セミナーの参加者数はあまり成果とは言えない。事業の成果と言えるかもしれないが、施策の成果としてはどうかと思うところもある。これは今言っても仕方がないこと。次期の計画において施策ごとに評価指標を設定する時にはそういう視点で設定していただきたいと思う。中々難しいことかもしれない。例えば今の就職支援窓口も相談者数ではなくて実際に UI ターンした数が見たい。把握が難しいかもしれないが、どういう成果があったかというのはそこで判断すべきだと思う。

事務局 アウトプット、アウトカムという部分ではないかと思う。取組をしていく上ではどうしてもそういったところで目標を立てないといけない。そういった視点ももちろんあり、やはり一番大事なものは結果でアウトカムの部分かと思っている。アウトカムを出すことが非常に難しいという点は山岡会長もよくご存じかと思う。現行計画は総合戦略をもとに目標を立てたということもあるが、次期計画の中ではこの目標数値について1つ1つの推進施策ごとにしっかりと目標をきちんと設定したい。できる限りアウトカムと言う形で設定できれば一番良いが、両方混ぜるような形になるかと思う。実績を出していくということは大事だと理解しているので、その点を踏まえて設定したい。

委員 『出雲市まち・ひと・しごと創生「人口ビジョン」・「第2期総合戦略」』の会長でもあるため、そこでもそういう業務がある。ここでもあえて触れさせていただいた。

委員 この計画ができてから毎年こうした KPI に対しての成果が出てくる。以前の会議でもお話をしたが、1つずつの施策に対して図らずも女性の労働に対しての意志向上といったテーマが出て

きた。「出雲市～女性に優しい職場づくり～」というタイトルでも良いかなという風に思った。1 つずつの施策に対してはかなり言い足りないところはある。元々前回の推進計画の中でこの KPI を読み返してみると、課長が仰ったように『出雲市まち・ひと・しごと創生「人口ビジョン」・「第 2 期総合戦略」』から引用したという言葉が出ている。何が言いたいかというと、この振興会議の推進計画に対しての関わり方がいまいちわからない。仰った全ての KPI に対しての結果というのは、今までこの振興会議であまり議論した記憶がない。最後に課長が仰った、いわゆるワークグループだけに終始していたので、その認定、それから結果報告、これがこれまでの振興会議のこの推進計画に対しての位置付けであったかと思う。こうして各年度が終わる度 KPI に対してどうだったかという話になるが、今まで大きな目標、計画、推進項目に対してほとんど議論が無かったような気がする。今回 1 つずつの課題をアンケート結果から抽出して、それに対しての意見が活発に出された。その結果、推進計画のこの KPI や項目に落とし込むことをこの振興会議の目標とするのか、まずお聞かせいただきたい。

事務局 壺倉委員が仰ったように、前回までこの振興計画自体の推進体制という中では残念ながらワーキンググループのことがこのイメージ図の中にも入っている。この振興会議で出雲市の施策等もご意見を入れていただいたりご提案していただいたりすることはイメージ図には入っているが、実際はこのモデル事業の方を大きくメインとしてやってきたというところはある。今後現行計画を踏まえながら今回計画を策定するにあたって、今後の推進体制について先程アウトカムというようなお話もあったが、振興会議は数値目標的などころを含めて検証していただく場。また、それに対し色々ご意見をいただく場であることが大事ではないかと思っている。私たちも議会の場でも色々ご質問いただいたりその度にお答えもさせていただいたりしているが、この振興会議では 1 つ 1 つの事業について時間を取って詳しくご説明をしながら、出雲市の地場中小企業、小規模企業の対策について委員の皆さんに議論いただいたものを元に、事業の立案まで含めてできれば 1 番良い。ご提案もしていただきながら、しっかり数値目標も含め検証する場とさせていただけたらと思っている。

委員 最初の計画から関わっている者として発言させていただく。先程の壺倉委員のご意見と関連するが、最初の計画では推進体制自体が 1 つの肝いりだったと思う。この振興会議がゆくゆくは、極端に言うと自立して施策も提案していく。当初はそのように色んなメンバーが入って議論をして市の産業振興を引っ張っていくというようなイメージだったと思う。それはこの実績の 4 点だ 5 点だというような評価とは別のところで推進体制としてこの振興会議をそうしようということが 1 つの眼目だった。そういう第 3 の組織を作ろうということであったため、ある意味では壮大な計画だったと思う。しかしコロナ禍もあって難しかったと思うが、検証は検証としてやはり難しかったということはどこかできっちり総括をして、今後新しい計画ではこの振興会議をどう位置付けるのかということ、先程課長が仰ったようにもう少し現実的な位置付けで回した方が良いと思う。これからの各論と同時に推進体制をどうするかということも 1 つの業務の項目かと思う。

事務局 先程のお話では、実際のこの振興会議の委員の方々、その他色々な人を糾合しながらワーキングを作って、それが出雲市の産業振興施策に対して動きを起こされるという形をイメージして作られたということだった。大変申し訳ないことだが、私自身はその議論の場になかったということもあり、以前からいらっしゃった皆さんの思いの部分が確実に受け止められていなかったという点は非常に反省をしないといけないと思った。委員の皆さんも忙しい中で、事業者にとってみてもこのワーキンググループで活動して関わっていくということは非常に理想

的。しかし非常に大変なことでコロナ禍もあり、当初の平成 29 年～平成 30 年くらいのところの策定された方々の思いの部分が実際にはそういう流れできていなかった。これは軌道修正と言えれば軌道修正かもしれない。当時のそこまでの思いを汲んだ上でできなかったところは反省するところだが、今後この推進体制についても見直していく必要もある。松山市の事例を参考にしながらこの計画を作ったという経緯があることは私も伺っているが、先程長岡副会長が仰ったことはある意味事業者や商工支援団体や金融機関等含めて皆さんが関わってやっていくということで、非常に理想的な部分もあるが、半年くらい前に松山市にお聞きすると中々理想通りにはなっていないとのこと。特に松山市は計画自体の見直しもされておらず、コロナ禍によってできなかったということだった。半年ほど前の状況なので今はどうなっているかわからないが、そのように聞いている。ただこれまでやってきたことを踏まえたこれからの推進体制は非常に大事なことだと思っているので、またこれについても委員の皆さんにご意見いただきながらまとめて参りたいと思っている。

委員 前回の振興会議でもそういう話があった。私の方からも振興会議の位置付けをもうちょっと整理していただきたいと思う。設置要綱を見ると実施部隊とは思えず、進行管理が主だろうというように読み取れるが、その辺を整理していただきたい。もう 1 つ、指標と数値目標についてはこの振興会議でも議論し、チェックするということだと思うが、その指標の選定なり、目標値の設定も推進計画の中に盛り込まれると理解して良いか。

事務局 前回のように総合戦略から引用して終わりという訳にはいかない。先程アウトカムということをおっしゃっていただいたが、非常に大きな宿題をいただいたと思っている。ぱっと見て分かり易く判断していただくのは数値目標かと認識している。1 つ 1 つの推進施策ごとになんらかのそういった目標が立てられればと思っている。

委員 そのような訳で、次回以降は施策の体系や肉付け、目標設定も合わせて議論いただくということで、確認できたかと思う。議題については以上で終了とし、事務局にお返しする。

### < 3. その他 >

事務局 最後に、この振興計画の策定スケジュールの予定もお配りしている。前回の説明したところから少し変わっているため、そのことについてご説明をさせていただきたい。本日、本来であれば冒頭にあった通り計画の骨子の検討をするということを考えていたが、まずは今回この課題等を含めて見ていただいた。また後程お願いもさせていただくが、お気付きの点、またはこういう施策をしていっていただきたいというようなご提案等があれば、その都度受け付けていながら次期計画の骨子の検討を進めて参りたいと思っている。その関係で 1 回会議を増やさせていただいた。これはあくまでも予定で、第 3 回会議のところでは骨子の方の審議をさせていただく。そして第 4 回では計画の素案の審議というところで、パブリックコメントを実施しながら 2 月の下旬あたりで最終的な確認をするというようなスケジュールにさせていただいた。一部前後するケースもある。大変お忙しいところでまた会議に 1 回多く出席していただくことになり恐縮だが、やはり委員の皆さんからのご意見をもとにこの計画を作っていきたいと思っている。全ての皆さんとなると難しい部分もあるかもしれないが、皆さんが納得できるような形の計画策定ができたと思う。中々バラ色の部分が描けるかどうかは疑問だが、当然上位計画である総合振興計画等新たな部分もあるため、その部分と連携しながら、また連動しながら新たな振興計画を作って参りたいと思っている。引き続きご協力のほどよろしくお願いしたい。

事務局 先程課長が申し上げた通り、振興会議を年 4 回と計画していたものを年 5 回とする関係で、次



回の振興会議だが、第3回振興会議とスケジュールの部分にも記載しているが、10月の中旬から中旬にかけての時期に開催をしたいと考えている。詳しい日程等は決定次第またご連絡を差し上げたいと思う。以上を持って令和4年度第2回出雲市地場中小企業・小規模企業振興会議を閉会する。ご協力感謝申し上げます。

以上